

1. 概要

キルチネル大統領は、議会での所信表明演説において、デフォルト状態からの脱出、垂経済の回復等について強調した。また、キルチネル大統領が、バセオット軍司教の軍司祭としての地位を剥奪したことにより、パチカンとの緊張関係が一時高まった。サンティアゴデルエステロ州では、サモラ州知事（野党・急進党）が就任したことにより、同州に対する連邦政府直接統治が終了した。

外交面では、垂米関係において、ラムズフェルド米国防長官の訪垂、キルチネル大統領とブッシュ米大統領の電話会談、ビエルサ外相とライス米国務長官の会談等が行なわれた。また、キルチネル大統領は、バスケス・ウルグアイ大統領の就任式出席の機会を利用して、ルーラ・ブラジル大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と三者会談を行なった。その他、キルチネル大統領のチリ訪問、ビエルサ外相の中国及びトルコ訪問、松浦ユネスコ事務局長の訪垂が行われた。

2. 内政

(1) 所信表明演説

(イ) 1日、キルチネル大統領は、第123回通常議会開会において約1時間半に亘り所信表明演説を行った。

(ロ) 演説の主要内容は、以下の通り。

- ・垂は多大な努力によりデフォルト状態を解消した。垂の歴史上初めてとなる思い切った削減を伴う対民間債務再編は、前例のないものである。

- ・公共料金改定を含む民営化企業との契約再交渉は、垂以外の裁判や仲裁を受けることなく、垂国内法規に基づいて実施されるべきである（注：一部民営化企業が提訴している国際投資紛争解決センターの仲裁を指す）。

- ・垂の法律はリスクのない外国投資を保証しているが、いかなる者に対しても垂に居残ることを強制するものではない。我々は、我々と共に仕事を共有しようとする者を歓迎する。

- ・外交政策は、多元主義、平和、自治権の尊重に基づき進められる。国連安保理議長国（2005年1月）を務めたことは垂にとり名誉なことであった。優先課題は、メルコスールの強化、拡大、推進、及び南米共同体の推進。中国、インド、パキスタン、ベトナム、モロッコ、韓国との合意により投資分野で新たに興味深い局面を迎えることになった。マルビーナス諸島領有権を改めて主張する。

- ・その他、教育、人権、治安、汚職、司法改革、環境、保健、ディスコ火災（昨年12月30日に死者193名を出した火災事故）、マスコミ批判等について言及した。

(ハ) ドゥアルデ前大統領は、演説内容全てに賛同し、現政権を誇りに思うと述べた。

(2) バセオット司教問題

(イ) 2月17日、バセオット司教は、聖書の一節を引用して、堕胎合法化を肯定したゴンサレス・ガルシア厚生・環境相を海に捨ててもよい等と述べて批判した。重では、軍政期の行方不明者の一部を軍が海に投げ捨て殺害したと言われているが、バセオット司教の発言は、右を想起させるものとして、政府は、同発言の不適切さを非難した。

(ロ) 2月24日、ビエルサ外相は、同司教の地位剥奪の要請をバチカンに伝えたが、3月16日、バチカンは、重政府の要請を拒否し、同司教の堕胎反対の立場を支持した。

(ハ) 18日、キルチネル大統領は、バセオット司教の軍司祭としての地位を剥奪する大統領令に署名した。

(ニ) バチカンは、政府の一連の行為は信教の自由を侵害しているとして重政府を批判した。これに対して、ビエルサ外相は、バセオット司教がミサを行うことはできるだろうと述べて、宗教活動の自由まで侵害するものではないことを示した。

(3) サザン・ウィンズ航空麻薬密輸事件

(イ) 16日、ビエルサ外相は、上院において、サザン・ウィンズ航空麻薬密輸事件に関する説明を行った。同外相は、同事件が重大であることを認めると共に、キルチネル大統領が、早期に同事件に関する報告を受けるべきであったと述べた。

(ロ) 30日、アルベルト・フェルナンデス首相は、下院において、同事件の説明を行った。同首相は、同事件が当地全国紙ラ・ナシオン紙で報じられる約一週間前まで、政府が同事件を承知しておらず、空港警察を管轄していた空軍幹部が同事件を隠蔽していたと述べた。

(4) 賃上げ問題

(イ) 22日及び23日、ラバーニャ経済相は、労働総同盟 (CGT) 共同代表のルエダとリンヘリとそれぞれ会談し、生産性向上を伴わない賃上げには反対との立場を説明した。

(ロ) モジャノ CGT 共同代表は、キルチネル大統領とラバーニャ経済相の立場が違うことに驚いているが、最終的には、キルチネル大統領が決定することであると述べて、ラバーニャ経済相を批判した。

(ハ) 25日、ドゥアルデ前大統領は、ラバーニャ経済相を支持する姿勢を見せると共に、労組に対して慎重な行動をとるよう要請した。

(5) サンティアゴデルエステロ州

23日、サモラ・サンティアゴデルエステロ州知事 (野党・急進党) が就任した。これにより、昨年4月1日より行われていた同州に対する連邦政府直接統治が終了した。

(6) カタマルカ州議会議員選挙

6日、カタマルカ州で州議会議員の一部改選選挙が行われ、野党・急進党系の Frente Civico y Social が勝利した。

3. 外交

(1) 米国

(イ) 21-22日、ラムズフェルド米国防長官が訪亜し、パンプーロ国防相と会談した。同会談での主要内容は以下の通り。なお、同長官の訪亜中、キルチネル大統領は、セマナ サンタ休暇で地元サンタクルス州に滞在していたため、同長官と会談することはなかった。

- ・ラムズフェルド長官は、ミサイル・衛星技術開発分野での米の亜への協力を約束した。
- ・ラムズフェルド長官は、「ブッシュ大統領が、キルチネル大統領をラ米地域のリーダーであると認識しており、亜の同地域における政治安定化への努力に感謝している」というブッシュ大統領からのメッセージを伝えた。
- ・パンプーロ国防相は、ラムズフェルド長官に対して、国連ハイチ安定化ミッションにおける亜軍の活動状況について説明し、ハイチの政治・社会再建のために米国が約束した資金協力12億ドルの速やかなディスパースを要請した。これに対し、同長官は、早期のディスパース実施を約束した。

会談後の共同記者会見において、ラムズフェルド長官は、ハイチ安定化における亜軍の活躍を賞賛し、感謝の意を表した。

- ・両者は、ボリビア、コロンビア、ベネズエラ等のラ米地域の政治情勢について意見交換を行った。ラムズフェルド長官が、チャベス・ベネズエラ大統領がラ米地域の不安定要素であるとの米国の見解を示したのに対して、パンプーロ国防相は、同大統領が、選挙で選ばれた大統領であり、正当性に疑いはないと亜政府の見解を示した。
- ・両者は、詳細には協議しなかったが、レーダー化計画における協力や共同軍事演習実施に向けての意思を確認した。

(ロ) 29日朝、ブッシュ米国大統領は、キルチネル大統領に電話し、約20分間に亘り電話会談を行なった。

同電話会談において、ブッシュ大統領が、チャベス大統領について懸念を有していると述べたのに対して、キルチネル大統領は、ベネズエラの民主的な政府とは今後も対話を続けていくと応じた。

ブッシュ大統領は、キルチネル大統領が南米地域において果たしている重要な役割を強調し、ボリビア及びハイチ安定化のための亜の協力を感謝の意を表した。

また、ブッシュ大統領は、過去2年のアルゼンチンの経済回復を賞賛すると共に、同回復が続けば、外国からの資金が流入することになると述べてきた。

(ハ) 31日、ビエルサ外相は、ワシントンにおいて、ライス米 국무長官と約45分間に亘

り会談した。会談では、亜債務問題等の経済情勢、ラ米地域情勢、国連安保理改革等が取り上げられ、ビエルサ外相は、亜の債務再編交渉に関し、G7、IMF、世銀における米の支持を要請した。

(2) チリ

(イ) 14日、キルチネル大統領は、チリにおいてラゴス大統領と会談を行ない、衛星、領事、教育、麻薬対策等に関する二国間協定に署名した他、アンデス横断鉄道計画の入札への呼びかけを確認した。さらに、両大統領は、二国間の戦略的同盟関係を再確認した。

(ロ) キルチネル大統領は、天然ガス輸出制限に関して、常に亜国内消費を考慮に入れて行うと述べて、亜国内供給が優先されることを明確にした。

(ハ) ラゴス大統領は、亜のマルビーナス諸島領有権主張を支持した他、12日に、チリの要請により亜からチリに移送されたドイツ人ポール・シェーファー（元ナチス軍人）に関して、亜の迅速な対応に謝意を表明した。

(3) ウルグアイ

(イ) 1日、キルチネル大統領は、バスケス大統領の就任式に出席するためウルグアイを訪問した。

(ロ) 2日、キルチネル大統領は、バスケス大統領と会談し、両国政府が人権の擁護と促進を約束する宣言文に署名した。また、両首脳は、両国の軍政期時代の行方不明者について、その所在の調査を約束した。

(4) ブラジル及びベネズエラ

(イ) 2日、キルチネル大統領は、バスケス・ウルグアイ大統領就任式出席のためウルグアイを訪問していたルーラ・ブラジル大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と1時間以上に亘って三者会談を行った。

(ロ) 三首脳は、債務問題において、IMF等の国際金融機関に対して、共通の立場で交渉していくことで合意した。

また、三首脳は、エネルギーや社会分野での南米地域統合プロセスを急ぐことで合意し、40日以内に各国の関係省レベルで3つの委員会を設立することで合意した。

その他、チャベス大統領は、ベネズエラがメルコスールへ正式に加盟する（現在は準加盟国）意向を表明した。

(5) 中国

(イ) 8日、ビエルサ外相は、中国において薄熙来通商部長と会談した。会談において、中国は、加熱食肉、柑橘類、リンゴ、梨等の亜農産品への市場開放を約束した。他方で、同部長は、繊維、玩具、履物等の中国産品に対する亜のセーフガード適用について、懸念

を表明した。

(ロ) 10日、ビエルサ外相は、李肇星外交部長と会談し、経済・通商問題を中心に協議した。

(6) トルコ

(イ) 28日、ビエルサ外相は、セゼル・トルコ大統領を表敬した。同大統領は、同外相に対し、キルチネル大統領を同国へ招待する旨伝えた。

(ロ) 同日、ビエルサ外相は、ギュル・トルコ外相と会談した。会談において、両外相は、教育・文化、動物、植物保護分野での二国間の協力に関する3つの協定に署名した。

(7) ユネスコ

7-8日、松浦ユネスコ事務局長は、南米諸国訪問の一環として、亜を訪問した。同事務局長は、キルチネル大統領やヌン文化長官と会談した他、議会における第一回ラ米議会科学技術フォーラムに出席した。また、同事務局長は、イバラ・ブエノスアイレス市長との小学校始業式の視察、亜作家故ビクトリア・オカンポがユネスコに寄贈した歴史的建造物ビジャ・オカンポ邸の視察、音楽・舞踊促進を目的とした「声なき者の声」計画の発表式参加等を行った。

(8) 要人往来

(イ) 来訪

3月2日 ルイス・ナバロ・パナマ第一副大統領兼外相

3月7-8日 松浦ユネスコ事務局長

3月8日 オルマート・イスラエル首相代理

3月21日 カルデラ・サンチェス西労働相

3月21-22日 ラムズフェルド米国防長官

(ロ) 往訪

3月1-2日 キルチネル大統領のウルグアイ訪問(バスケス大統領就任式出席、ルーラ・ブラジル大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と会談)

3月6-8日 ラバーニャ経済相の訪米(ラトIMF専務理事と会談)

3月8-10日 ビエルサ外相の訪中(薄熙来通商部長及び李肇星外交部長と会談)

3月14日 キルチネル大統領のチリ訪問(ラゴス大統領と会談)

3月18日 パンプーロ国防相のウルグアイ訪問(ベルッティ国防相と会談)

3月27-30日 ビエルサ外相のトルコ訪問(セゼル大統領への表敬及びギュル外相と会談)

3月31日 ビエルサ外相の訪米(ライス国務長官と会談)